

令和6年度 東京都内湾水生生物調査 2月成魚調査速報

●実施状況

令和7年2月10日に成魚調査を実施した。調査当日は中潮で、干潮が10時11分、満潮が15時19分であった(気象庁のデータ)。調査当日の透明度は3.4~4.3mであった。いずれの地点においても赤潮は発生していなかった。

全地点において、ハタテヌメリが出現した他、St.35においてはテンジクダイが多く確認された。

	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時刻	9:59-10:37		11:18-11:58		12:28-13:04		13:39-14:26	
水深(m)	26.4		13.9		13.6		8.5	
天候	快晴		快晴		快晴		快晴	
気温(℃)	7.9		9.6		10.0		9.9	
風向/ 風速(m/sec)	-/0.0		SW/1.8		S/4.0		S/2.0	
波浪(m)	0.2		0.2		0.2		0.2	
透明度(m)	4.3		3.8		3.4		3.4	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(℃)	9.3	12.8	10.4	10.7	10.0	10.1	9.9	10.4
塩分(ー)	31.9	33.6	30.4	32.5	30.9	32.3	31.0	32.3
DO(mg/L)	9.6	7.0	8.4	7.6	9.1	8.4	9.4	8.1
DO飽和度(%)	102.6	—	91.5	—	98.2	—	101.7	—
pH(ー)	8.2	8.2	8.0	8.1	8.1	8.1	8.1	8.1
水の臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
備考								

観測層: 上層(0m)・下層(海底面上1m)。DO 飽和度は上層のみ計測。

●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。)

主な出現種等	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	テンジクダイ(m) ハタテヌメリ(c) コモチジャコ(+)	ハタテヌメリ(+)	ハタテヌメリ(c) テンジクダイ(r) シロギス(r) アカエイ(r)	ハタテヌメリ(r) メイタガレイ(r) ヒガンフグ(r) アカエイ(r)
魚類以外 (目立った種)	オウギゴカイ(G) ケブカエンコウガニ(m) クシノハクモヒトデ(m)	オウギゴカイ(m) トリガイ(m) クシノハクモヒトデ(c)	オウギゴカイ(m) スナヒトデ(c) エビジャコ属(c)	オウギゴカイ(m) エビジャコ属(c) クシノハクモヒトデ(c)
備考	上記の他、シロギス、モヨウハゼ、ゲンコ、チロリ科等が確認された。	上記の他、チロリ科、マンハッタンボヤ、サルエビ、ダンゴイカ科等が確認された。	上記の他、トリガイ、ケブカエンコウガニ、サメハダヘイケガニ等が確認された。	上記の他、イッカクモガニ、ウスカラシオツガイ、ロウソクエビ属等が確認された。

注) 表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

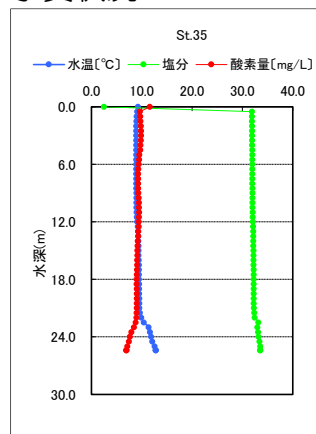
G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St. 35

調査地点位置



水質状況



地点状況



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料



砂泥底に生息するウミウシの仲間。周縁の裏側(腹側)に、体側に沿って並ぶ特徴的な鰓板がある。ウミエラ等の刺胞動物を食べる。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



東京湾全域に出現し、特に湾奥に多い。砂泥底に生息して甲殻類等を食べる。繁殖期は 7 月から 10 月。親魚が卵を口の中にくわえて、ふ化するまで保護する習性を持つ。



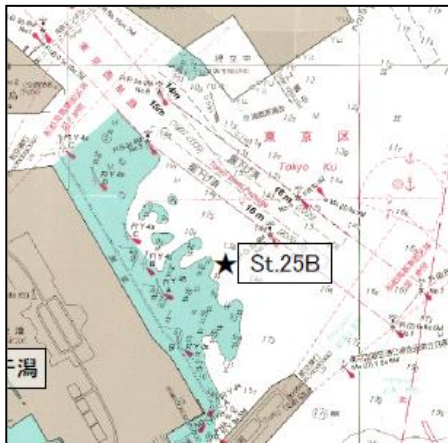
東京湾全域から出現記録があり、現在は主に湾奥に分布する。比較的深所の泥底から砂泥底に生息する。産卵期は春。今回、抱卵個体が採取された。



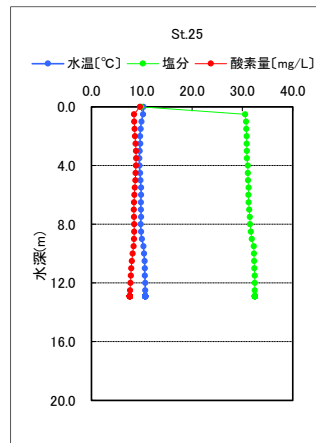
北海道南部以南の日本各地に生息する。水深 50~150mの砂泥底に生息し、底生生物を食べる。

調査地点：St. 25

調査地点位置



水質状況



地点状況

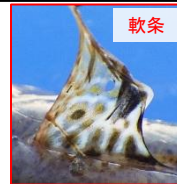


西側には東京国際空港が見える。

採取試料



全長 14 cm ほど。
オスの前部背びれにある軟条(軟らかいスジ)は糸状に長く伸びる。夏は湾中央のやや深い場所に生息し、秋から春にかけては湾奥にも分布するが、これには夏の貧酸素水塊発生が影響していると考えられている。



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



ほぼ球形で、殻は薄く脆い。長い足が鳥の嘴に見えることが名前の由来。内湾の砂泥底に生息し、湾奥では夏季の貧酸素水塊の発生により、ほとんどが死亡する。貧酸素水塊解消後に出現した稚貝は、翌年春に 6cm ほどまで成長する。



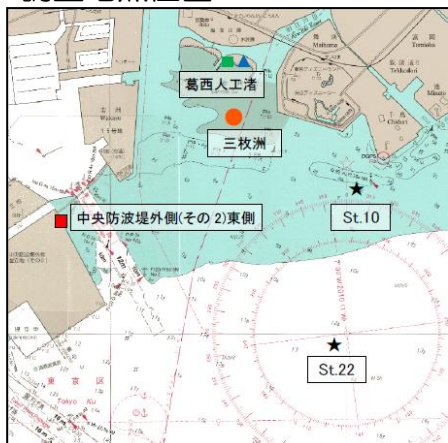
丸みを帯びた胴と丸い耳のようなひれを持つ小型のイカ類。活発に泳ぎ回らず、海底付近で生活する。夜行性であり、昼間は砂泥中に潜っている。



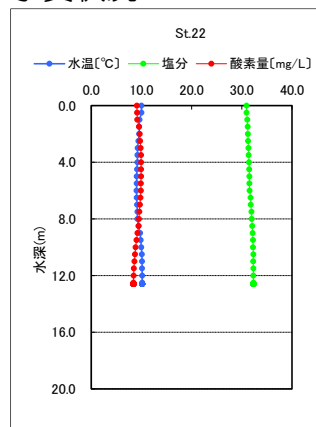
全長 20cm 以上になる大型のゴカイ類。東京湾の泥底～砂泥底では、貧酸素状態の期間を除き、普通に見られる。ゴカイ類は吻(ふん)にある顎片(がくへん)の数や配列等で同定するため、肉眼での識別は難しい。

調査地点：St. 22

調査地点位置



水質状況

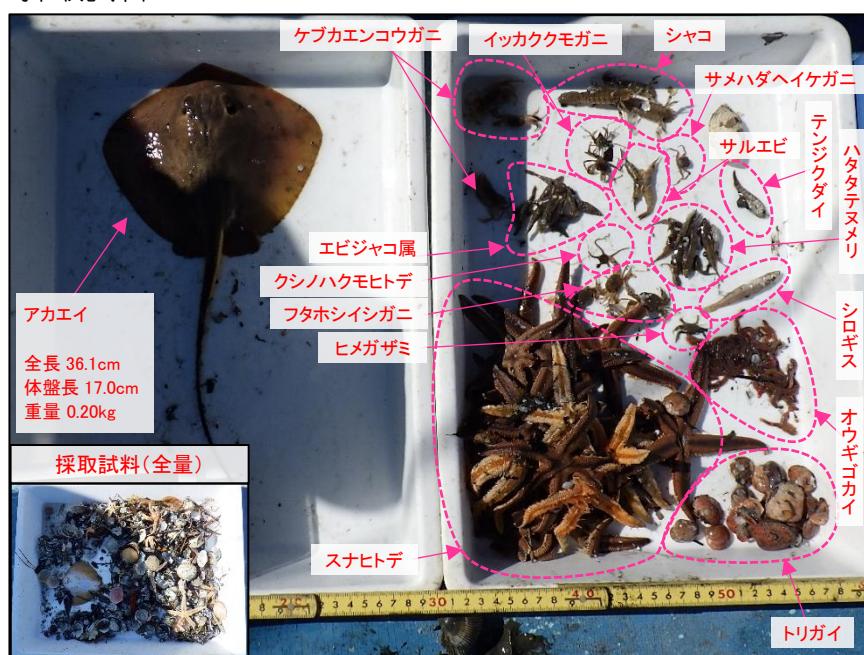


地点状況



北西側には東京ゲートブリッジがある。

採取試料



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



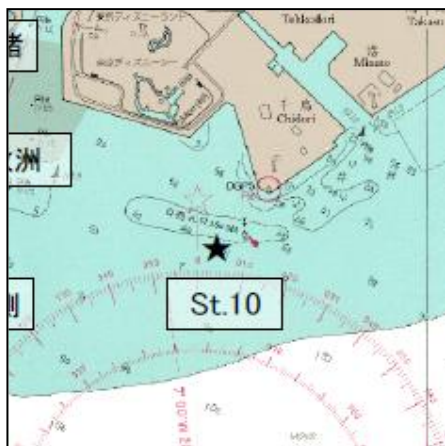
東京湾では湾奥から外湾にかけての砂浜海岸等で多く見られる。水温が高い時期は浅場で過ごす、低くなってくると深所へと移動する。警戒心が強く、危険を感じると砂に潜る習性がある。産卵期は5月から10月。

内湾の砂泥底に生息する大型のヒトデ。砂中の貝類等を捕食する。ヒトデの多くは先端が吸盤になっている管足を用いて移動するが、本種にはその吸盤が無く、砂泥上を滑るように移動する。通常は5本腕であるが、まれに腕の数が多い個体が出現することがある。

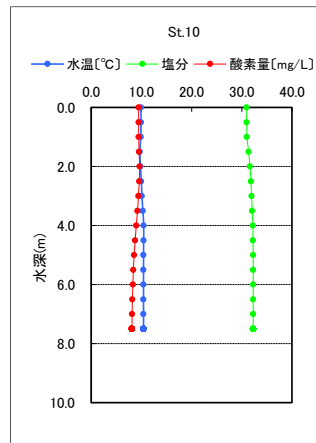
内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。小さな体の割に獰猛で、稚魚等を捕食する。

調査地点：St.10

調査地点位置



水質状況

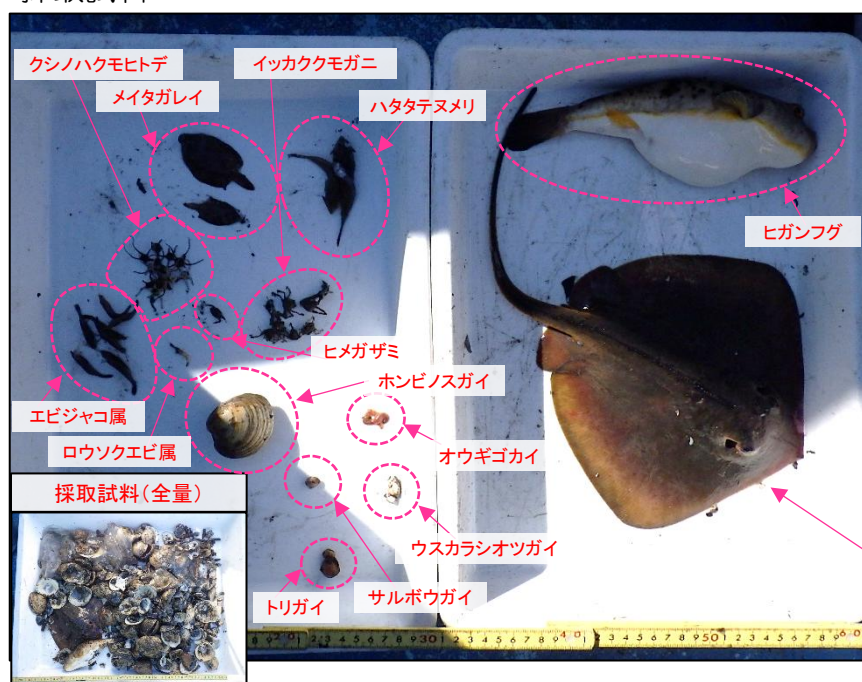


地点状況



北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料



東京湾で最も普通に見られるエイの仲間。甲殻類や多毛類等を食べる。尾部にノコギリ状の棘(毒針)を持ち、刺されると危険。

アカエイ
全長 44.4cm
体盤長 24.6cm
重量 0.62kg

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



体長 20cm ほどになる。水深 20～120m の砂泥底に生息し、多毛類等を食べる。名前の由来は、眼の間に棘があり、触ると痛い(目痛鰈)とされる(諸説あり)。



港や藻場に生息する、トラフグの仲間。体長 35 cm ほどになる。体表にトゲは無く、黄色がかった褐色の背部には黒点が散り、白い腹部とは黄色い帯で仕切られている。東京湾全域で出現記録があるが、本調査では初出現となる。



名前にヒトデとつく棘皮動物であるが、スナヒトデ等のいわゆる星型をしたヒトデ(海星綱)とは違う、蛇尾綱の仲間。砂泥底に生息し、クモのような動き方をする。貧酸素に強い耐性を持つ。